



休館のお知らせ

令和5年12月29日（金）から令和6年1月3日（水）まで
年末年始のため休館します。

12月15日（金）から12月28日（木）までに貸出する本は、貸出期間を延長しています。
利用者カードに印字されている返却期限をご確認ください。

好評企画！新年の運試しにいかが？ 12月23日（土）～1月8日（月・祝）

一行で選ぶ！ブラインドブック

【一般向け】図書館3階

表紙もタイトルもわからない。本から抜き出した
一文だけが、本を選ぶヒントです。

本の福袋

【児童向け】図書館3階

どんな本が入っているか
お楽しみの3冊セット。

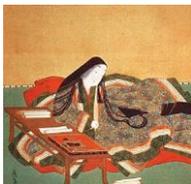


企画展示 紫式部と平安文化

図書館3階

12月16日（土）～1月21日（日）

紫式部と彼女が生きた平安時代に
関する本を展示します。
大河ドラマ「光る君へ」を先取り！



読書感想画コンクール優良作品展

文化フォーラム春日井1階ギャラリー

2月8日（木）～2月12日（月）

9:30～17:00（12日は15:00）

市内の小中学生が描いた読書感想画の作品展です。

図書館からのお願い

予約した資料が用意できたとき、電話やはがきでも連絡を受け取ることができますが、図書館はメール連絡をおすすめしています。用意できた本はその日のうちに毎日メールで連絡しますので、早くて確実です。タイトルもお知らせします。メールアドレスの登録にご協力をお願いします。



マイページへの
ログインはこちら

春日井市図書館 電話：(0568)85-6800

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地 文化フォーラム春日井 3・4階

開館時間：午前9時～午後8時 休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）



おすすめ本紹介

ノーベル文学賞

毎年10月は、ノーベル賞受賞者の発表があります。科学賞（物理、化学、医学生理学）・文学賞・経済学賞・平和賞の人類最高の栄誉が誰に、どんな団体に、授与されるのか、世界中が注目します。

ノーベル文学賞は一般的な文学賞と違い、ノーベルの遺言により“卓越した理想主義的作品を書いた作家”に贈られています。選考の基準がわかりにくいのが難点ですが、受賞した作家の作品は素晴らしいものばかりですね。（今年も村上春樹さんの受賞はありませんでしたが…）



『クララとお日さま』

カズオ・イシグロ/著 土屋 政雄/訳 早川書房
933.7/ク/20（図書館 4階一般/ふじとう/南部/知多）

長崎で生まれイギリスで育ち、作家デビューは日本を舞台にした『遠い山なみの光』でした。ドラマ化された作品も多くご覧になっているかもしれませんね。

2017年のノーベル文学賞受賞後はじめての作品『クララとお日さま』は、人型ロボットと病弱な主人公・幼なじみとの友情があたたかな調子で綴られています。格差や分断、人工知能(AI)との付き合い方など、ちょっぴり考えさせられる作品です。

『はじまりの日』

ボブ・ディラン/作 ポール・ロジャース/絵 アーサー・ピナード/訳 岩崎書店 E/イワ/10-27×29（図書館閉架/ふじとう）

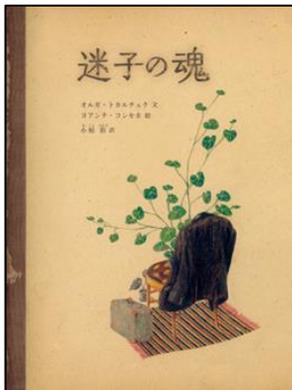
2016年のノーベル文学賞受賞講演で、ボブ・ディランは「歌の詞は歌うためのものであり、ページに綴られているのを読むものではない」と話しました。

でも、ロックの名曲『Forever Young』が、アーサー・ピナードの歌える日本語訳とポール・ロジャースのさわやかな絵で、ステキな絵本になりました。“きみの 心のうたが みんなに ひびきますように 毎日が きみの はじまりの日”（本文より） ハミングしたくなります！



『迷子の魂』

オルガ・トカルチュク/文 ヨアンナ・コンセホ/絵 小椋 彩/訳
岩波書店 E/イワ/20-27（図書館 3階児童/西部/中央）



2018年のノーベル文学賞はスキャンダル騒動で1年遅れ、2019年オルガ・トカルチュクが受賞しました。ポーランド語で書かれた、ノスタルジックな雰囲気です。じんわりとあたたかな絵本を紹介します。

“わたしたちを上から見たら、忙しく走り回る人で世界はあふれかえっているでしょう。みな汗をかき、疲れきっている。そしてかれらの魂は……”

（本文より）

ただただ ぼんやり ながめるように 読んでみませんか？

おすすめ本紹介

言葉の本

挨拶や会話などコミュニケーションツールとしての言葉。連なって詩や歌や物語となって楽しませてくれる言葉。身近で大切な存在の言葉の本をご紹介します。



『目でみる方言』

岡部 敬史/文 山出 高士/写真 東京書籍 818/メ/23 (知多)

47都道府県の方言を紹介してその言葉が「何を意味しているのか、どのような状態を表しているのか」写真で見えてみるという、おもしろい企画の本です。知らない方言の意味や表現が多くて日本語の奥深さに驚くばかりです。

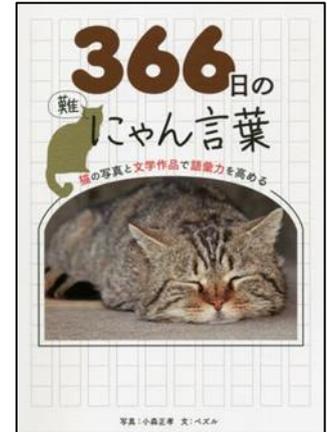
栄えある表紙を飾るのは、「ときんときん」の鉛筆です。尖った鉛筆を表現する方言も様々あるとのこと。皆さんの故郷ではどんな言葉で言いますか。

『366日のにゃん言葉』

小森 正孝/写真 ペズル/文 ミオブックス 814/サ/21 (ふじとう)

「韜晦」「追従」「陥穽」「蒼穹」この言葉の意味や読み方、おわかりになりますか。この本は、「聞いたことがあっても、意味をきちんと説明できない言葉」「知っていそうで知らない、なんかちょっと難しい言葉」=「にゃん(難)言葉」を、かわいい猫の写真と一緒に、楽しく学べる本です。

猫の写真に癒されながら、文豪たちの文学作品に出てくる「にゃん言葉」を楽しんでください。



『ハローキティの一日一禅』

武山 廣道/監修 リベラル社 188.8/ハ/18 (図書館4階一般)

普段何気なく使っている「挨拶」「主人公」などの言葉のもとには禅語です。禅語=禅の言葉は、仏教のひとつである禅宗の教えや考え方を表現したものです。

この本は、「元気してた?」「ひと休みしない?」「無理しなくても大丈夫だよ」「今日もいい日にしよう」「そのままがいちばん」の5章からなっていて、キティが優しい語り口で禅語を紹介しています。「一期一会」「日日是好日」「拈華微笑」など、とても素敵な言葉がたくさんあります。

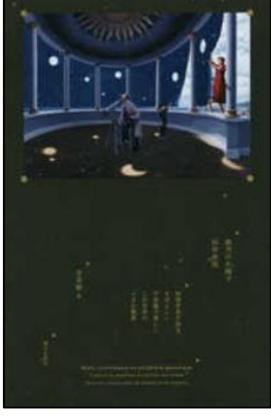


おすすめ本紹介

科学エッセイ 銀河の片隅で…

科学の本と言えば物理学や量子学など、難しい言葉や計算式などが出てくるイメージがあります。読み始めてからすぐに眠くなってしまふなんてことも…。

でも！そんな時は科学エッセイを試してみても？お話も短めで読みやすくなっているので、ちょっとした時間の隙間に少しずつ読んでいけます。1冊が読み終わったころには今まで知らなかった世界に驚き、科学は素敵だな～って思います。



『銀河の片隅で科学夜話』

全 卓樹/著 朝日出版社 404/キ/19 (ふじとう)

2021年に、自然科学を対象とした随筆として寺田寅彦記念賞を受賞した本です。1話読み切りの短編集になっていて、著者の全卓樹氏の知識の豊富さ、文章の巧みさに魅了され、何度でも読み返したくなる1冊です。特に興味をひかれたのが、太陽には双子の連星「ネメシス」がいるとの仮説。太陽系から遙か遠くの宇宙をこの星が巡っているそうです。

『渡り鳥たちが語る科学夜話』

全 卓樹/著 朝日出版社 404/ワ/22(ふじとう)

『銀河の片隅で科学夜話』の待望の続編。前作と同じく短編で読みやすく、さらに不思議な景色が広がります。大昔、月は二つあったと言う説や、国家の興亡も微分方程式にあてはまるのだという、なんとも壮大な世界をこの本から読むことができます。



『科学で大切なことは本と映画で学んだ』

渡辺 政隆/著 みすず書房 404/カ/20 (図書館4階一般)

こちらは映画と本から科学を論じるという1冊。お馴染みの映画や本が次々と出てくるのが楽しい本です。「アナと雪の女王」と雪の結晶。「博士の愛した数式」「容疑者Xの献身」の中の数学者の話など、やはり短編で読むことができます。

「科学エッセイ」という新しい分野で科学を分かりやすく紹介しようという著者の思いが伝わる3冊です。